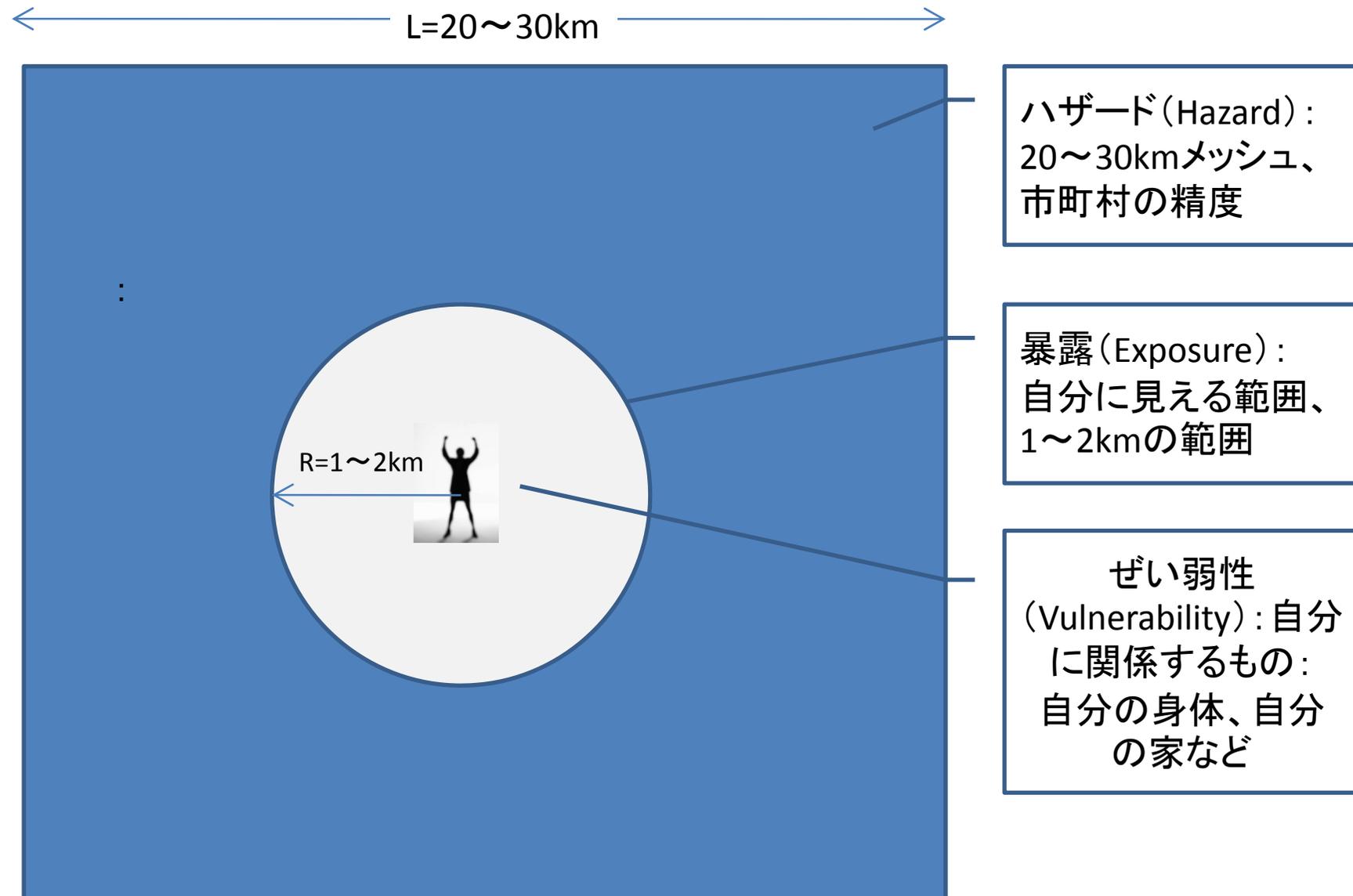
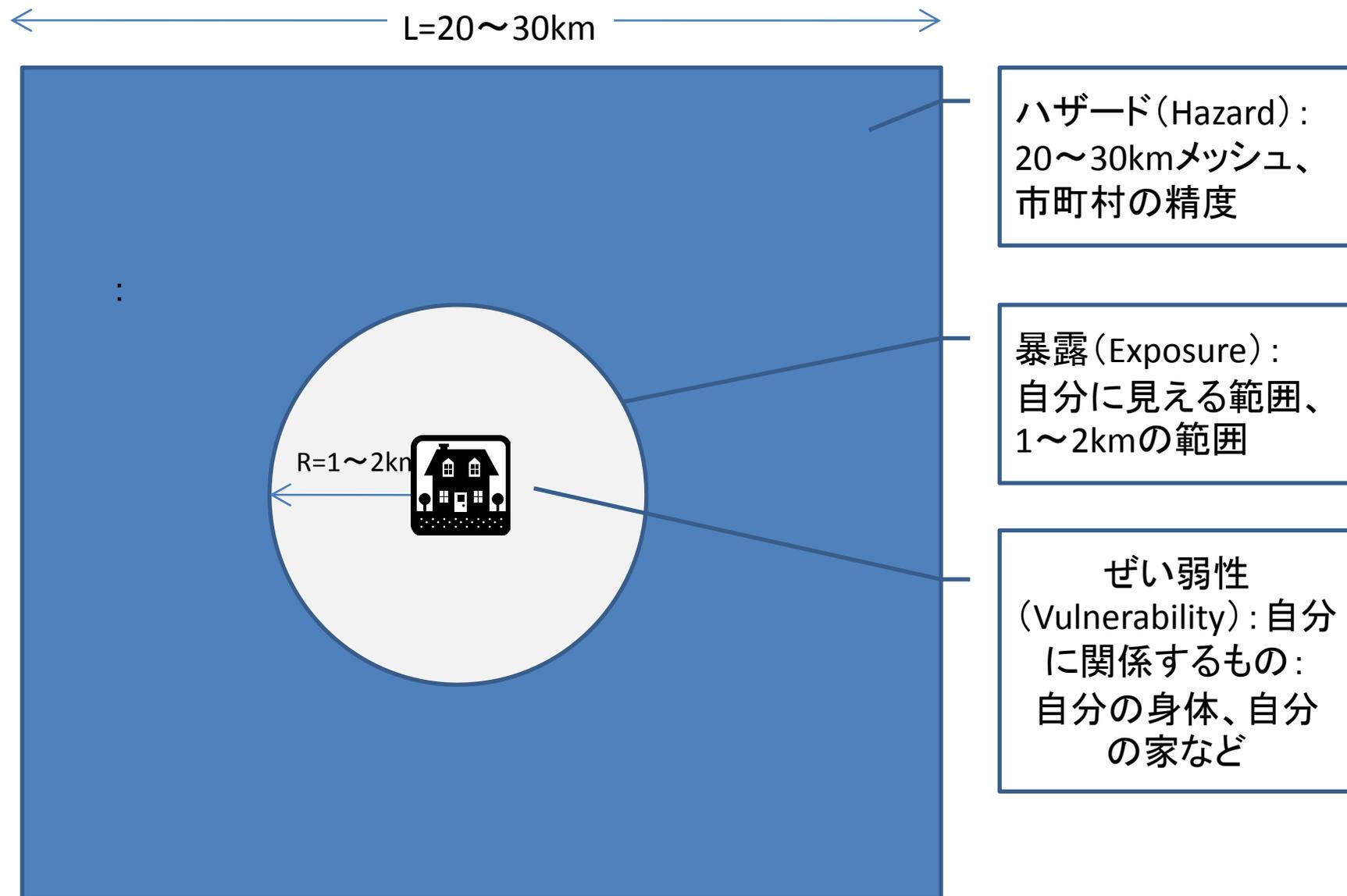


ハザード、暴露、ぜい弱性は関心の範囲が異なる Hazard, Exposure, and Vulnerability

参考資料 10



ハザード、暴露、ぜい弱性は情報の範囲が異なる Hazard, Exposure, and Vulnerability



4種類のリスク情報の提供

-広瀬モデルを手掛かりにして林作成-

情報源	ハザード強度	危険への暴露	ぜい弱性	公的情報
感覚情報 (第1次リスク情報)	五感を通して	五感を通して	自助:わが身・我が家のぜい弱性	
口コミ情報 Social Media	会話を通して	会話を通して	共助:要援護者への支援	市町村長から権限移譲を受けた現場の公務員による避難指示
警報 (第2次リスク情報)		市町村単位		市町村長による避難勧告
マスコミ情報 (第3次リスク情報)	アメダス情報、市町村単位			国・都道府県による避難準備情報

ハザード強度・危険への暴露・ぜい弱性に関する情報が与えられたときに、人は行動する人が行動しないときには、ハザード強度・危険への暴露・ぜい弱性に関する情報がそろわない

広瀬先生のモデルではリスク情報の情報源 として3つを想定

- 第1次情報：感覚情報：Sensory Information
 - （口コミ情報）：Social Media
 - 第2次情報：行政からの警報：Warning
 - 第3次情報：マスコミ情報：Broadcasts
-
- 感覚情報をもとに人は行動するが、警報やマスコミ情報が流れても避難しないことがあるのはなぜか
 - 広瀬モデルでは、口コミ情報が考慮されていない。最近米国では防災におけるSocial Mediaの影響に強い関心が寄せられている

リスク情報はどのように伝えられるか

